

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 近畿財務局長

**【提出日】** 平成23年8月10日

**【四半期会計期間】** 第79期第1四半期(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

**【会社名】** 株式会社モリタホールディングス

**【英訳名】** MORITA HOLDINGS CORPORATION

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 中島正博

**【本店の所在の場所】** 大阪市生野区小路東五丁目5番20号

**【電話番号】** (06)6756 0105

**【事務連絡者氏名】** 取締役管理サービス本部長 白井幸喜

**【最寄りの連絡場所】** 大阪市生野区小路東五丁目5番20号

**【電話番号】** (06)6756 0105

**【事務連絡者氏名】** 取締役管理サービス本部長 白井幸喜

**【縦覧に供する場所】** 株式会社モリタホールディングス東京本社  
(東京都港区西新橋三丁目25番31号)  
株式会社大阪証券取引所  
(大阪府中央区北浜一丁目8番16号)  
株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

##### 連結経営指標等

回次	第78期 第1四半期 連結累計期間	第79期 第1四半期 連結累計期間	第78期
会計期間	自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日	自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日	自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日
売上高 (百万円)	8,937	8,367	59,749
経常利益又は経常損失 ( ) (百万円)	230	23	4,614
当期純利益又は四半期純損失 ( ) (百万円)	281	107	2,230
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	469	146	1,772
純資産額 (百万円)	30,605	33,056	33,429
総資産額 (百万円)	62,359	66,394	71,765
1株当たり当期純利益金額又は四半期純損失金額 ( ) (円)	6.31	2.41	49.98
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	48.6	48.0	44.9
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	3,208	1,997	5,366
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	173	835	1,028
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	3,461	10	2,940
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (百万円)	4,550	7,529	6,373

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、第78期第1四半期連結累計期間及び第79期第1四半期連結累計期間は1株当たり四半期純損失を計上しているため、また、希薄化効果を有する潜在株式が存在しないため、第78期は希薄化効果を有する潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4 第78期第1四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

#### 2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。また、主要な関係会社に異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災によって甚大な被害を受け、電力供給の問題など懸念すべき問題も多く、極めて不透明な状況で推移いたしました。

このような環境のもと、当社グループは、積極的な営業展開に加え、原価低減の推進を図るとともに、新製品の開発に取り組んでまいりました。

当第1四半期連結累計期間の経営成績につきましては、売上高は8,367百万円（前年同四半期比6.4%減）となり、営業損失は71百万円（前年同四半期比222百万円の損失減）、経常損失は23百万円（前年同四半期比206百万円の損失減）、四半期純損失は107百万円（前年同四半期比174百万円の損失減）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

#### 消防車輛

消防車輛事業は、前年同四半期は補正予算関連の売上が寄与してありました結果、売上高は2,266百万円（前年同四半期比35.5%減）となり、セグメント損失（営業損失）は209百万円（前年同四半期は35百万円の利益）となりました。

#### 防災

防災事業は、パッケージ型自動消火設備「スプリネックス」の拡販に引き続き注力し、売上高は3,573百万円（前年同四半期比26.9%増）となり、セグメント利益（営業利益）は250百万円（前年同四半期は41百万円の損失）となりました。

#### 産業機械

産業機械事業は、厳しい受注環境が続いている中、積極的な営業活動を展開したことにより、受注は増加し、売上高は464百万円（前年同四半期比20.3%増）となり、セグメント損失（営業損失）は74百万円（前年同四半期は95百万円の損失）となりました。

#### 環境車輛

環境車輛事業は、東日本大震災による自動車メーカーからのシャシー供給遅延の影響もあり、売上高は1,270百万円（前年同四半期比18.6%減）となり、セグメント損失（営業損失）は92百万円（前年同四半期は53百万円の損失）となりました。

## 自転車

自転車事業の売上高は792百万円（前年同四半期比19.4%増）となり、セグメント利益（営業利益）は53百万円（前年同四半期は128百万円の損失）となりました。

## (2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末における総資産は66,394百万円（前連結会計年度末比5,370百万円の減少）となりました。

流動資産は、29,191百万円となり5,718百万円減少しました。これは主に、受取手形及び売掛金の減少10,019百万円の方で、現金及び預金の増加1,161百万円、たな卸資産の増加2,682百万円によるものです。

固定資産は、37,203百万円となり348百万円増加しました。うち有形固定資産は、30,390百万円となり222百万円増加し、無形固定資産は、811百万円となり235百万円減少し、投資その他の資産は、6,002百万円となり361百万円増加しました。

流動負債は、15,751百万円となり5,100百万円減少しました。これは主に、支払手形及び買掛金の減少4,137百万円、未払法人税等の減少1,301百万円の方で、その他の増加597百万円によるものです。

固定負債は、17,586百万円となり103百万円増加しました。

純資産は、33,056百万円となり372百万円減少しました。これは主に、四半期純損失の計上107百万円、剰余金の配当223百万円によるものです。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末の44.9%から48.0%となりました。

## (3) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ1,155百万円増加の7,529百万円となりました。

当第1四半期連結累計期間に係る区分ごとのキャッシュ・フローの状況は以下のとおりです。

### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは、1,997百万円の収入（前年同四半期は3,208百万円の収入）となりました。これは主に、売上債権の減少額10,552百万円の方で、税金等調整前四半期純損失33百万円の計上、たな卸資産の増加額2,673百万円、仕入債務の減少額4,184百万円、法人税等の支払額1,846百万円等によるものです。

### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは、835百万円の支出（前年同四半期は173百万円の支出）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出494百万円、貸付けによる支出305百万円等によるものです。

### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは、10百万円の支出（前年同四半期は3,461百万円の支出）となりました。これは主に、配当金の支払額197百万円の方で、長期借入れによる収入193百万円等によるものです。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間の研究開発費の総額は154百万円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(6) 従業員数

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの従業員数に著しい増加又は減少はありません。

(7) 生産、受注及び販売の実績

当社グループの売上高及び利益は、消防車輛事業の官公庁向け売上高の占める割合が高いこと等から、下期、特に第4四半期連結会計期間に偏る傾向にあります。

当第1四半期連結累計期間においては、消防車輛事業において前年同四半期における大型補正予算の反動から販売実績が減少いたしました。また、小規模社会福祉施設における消火設備の設置義務期限が平成24年3月に到来することにより防災事業の受注及び販売実績が前年同四半期に比べ著しく増加いたしました。産業機械事業においては、顧客の設備投資意欲の回復に伴い受注が前年同四半期に比べ著しく増加いたしました。

当第1四半期連結累計期間における各セグメント別の生産、受注及び販売の状況は次のとおりであります。

生産実績

セグメントの名称	生産高(百万円)	前年同四半期比(%)
消防車輛	2,274	34.3
防災	1,053	29.3
産業機械	464	+20.3
環境車輛	1,336	21.3
自転車	65	27.8
合計	5,194	27.1

- (注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。  
2 金額は、販売価格によっております。  
3 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

受注実績

セグメントの名称	受注高(百万円)	前年同四半期比(%)	受注残高(百万円)	前年同四半期比(%)
消防車輛	13,200	5.7	16,400	13.3
防災	1,559	+140.7	1,444	+71.8
産業機械	2,020	+236.4	3,862	+81.4
環境車輛	1,867	17.5	1,789	+1.8
合計	18,648	+6.5	23,497	0.6

- (注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。  
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。  
3 防災事業の防災機器部門及び自転車事業は見込生産を行っているため、上記の実績には含まれておりません。

販売実績

セグメントの名称	販売高(百万円)	前年同四半期比(%)
消防車輛	2,266	35.5
防災	3,573	+26.9
産業機械	464	+20.3
環境車輛	1,270	18.6
自転車	792	+19.4
合計	8,367	6.4

- (注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。  
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(8) 主要な設備

新設、休止、大規模改修、除却、売却等について、当第1四半期連結累計期間に著しい変動はありません。

前連結会計年度末において計画中であった主要な設備の新設、休止、大規模改修、除却、売却等について、当第1四半期連結累計期間に著しい変更はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	180,000,000
計	180,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成23年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成23年8月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	46,918,542	46,918,542	東京証券取引所 市場第一部 大阪証券取引所 市場第一部	単元株式数は1,000株で あります。
計	46,918,542	46,918,542	-	-

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成23年4月1日～ 平成23年6月30日		46,918		4,746		1,638

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成23年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成23年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 2,302,000	-	単元株式数 1,000株
完全議決権株式(その他)	普通株式 43,640,000	43,640	同上
単元未満株式	普通株式 976,542	-	-
発行済株式総数	46,918,542	-	-
総株主の議決権	-	43,640	-

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が8,000株(議決権8個)含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式973株が含まれております。

【自己株式等】

平成23年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
(自己保有株式) ㈱モリタホールディングス	大阪市生野区小路東 5丁目5番20号	2,302,000	-	2,302,000	4.90
計	-	2,302,000	-	2,302,000	4.90

2 【役員の状況】

該当事項はありません。



## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号、以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第2項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成23年4月1日から平成23年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、太陽A S G有限責任監査法人により四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,433	7,595
受取手形及び売掛金	19,212	9,192
商品及び製品	1,753	1,793
仕掛品	3,209	5,487
原材料及び貯蔵品	2,690	3,054
その他	1,679	2,116
貸倒引当金	68	49
流動資産合計	34,909	29,191
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	7,804	7,731
機械装置及び運搬具（純額）	1,349	1,283
土地	20,525	20,889
建設仮勘定	147	165
その他（純額）	341	319
有形固定資産合計	30,167	30,390
無形固定資産	1,046	811
投資その他の資産		
その他	5,702	6,059
貸倒引当金	61	57
投資その他の資産合計	5,640	6,002
固定資産合計	36,855	37,203
資産合計	71,765	66,394

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	12,995	8,858
1年内返済予定の長期借入金	2,012	2,012
未払法人税等	1,525	224
賞与引当金	821	655
役員賞与引当金	110	21
製品保証引当金	278	278
災害損失引当金	30	26
その他	3,077	3,674
流動負債合計	20,852	15,751
固定負債		
長期借入金	10,556	10,765
退職給付引当金	1,691	1,717
役員退職慰労引当金	207	142
その他	5,028	4,961
固定負債合計	17,483	17,586
負債合計	38,335	33,338
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	4,746	4,746
資本剰余金	3,743	3,743
利益剰余金	26,627	26,296
自己株式	1,036	1,036
株主資本合計	34,080	33,749
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	195	205
繰延ヘッジ損益	100	3
土地再評価差額金	1,428	1,428
為替換算調整勘定	121	277
その他の包括利益累計額合計	1,845	1,908
少数株主持分	1,194	1,216
純資産合計	33,429	33,056
負債純資産合計	71,765	66,394

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】  
【四半期連結損益計算書】  
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
売上高	8,937	8,367
売上原価	6,606	5,923
売上総利益	2,331	2,444
販売費及び一般管理費	2,626	2,515
営業損失( )	294	71
営業外収益		
受取利息	2	3
受取配当金	35	36
受取賃貸料	25	24
その他	77	60
営業外収益合計	140	125
営業外費用		
支払利息	57	56
賃貸費用	4	7
持分法による投資損失	2	0
その他	12	12
営業外費用合計	76	77
経常損失( )	230	23
特別利益		
固定資産売却益	3	0
貸倒引当金戻入額	49	-
特別利益合計	53	0
特別損失		
固定資産除売却損	7	0
投資有価証券評価損	158	-
災害による損失	-	9
特別損失合計	166	10
税金等調整前四半期純損失( )	343	33
法人税等	53	61
少数株主損益調整前四半期純損失( )	289	95
少数株主利益又は少数株主損失( )	8	11
四半期純損失( )	281	107

【四半期連結包括利益計算書】  
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失( )	289	95
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	158	11
繰延ヘッジ損益	29	103
為替換算調整勘定	9	142
その他の包括利益合計	179	50
四半期包括利益	469	146
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	460	170
少数株主に係る四半期包括利益	8	24

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純損失( )	343	33
減価償却費	348	308
のれん償却額	2	25
貸倒引当金の増減額( は減少)	49	24
受取利息及び受取配当金	37	40
支払利息	57	56
有形固定資産除売却損益( は益)	4	0
投資有価証券評価損益( は益)	158	-
持分法による投資損益( は益)	2	0
売上債権の増減額( は増加)	12,230	10,552
たな卸資産の増減額( は増加)	1,811	2,673
仕入債務の増減額( は減少)	5,135	4,184
その他	529	168
小計	4,896	3,819
利息及び配当金の受取額	38	39
利息の支払額	13	15
法人税等の支払額	1,712	1,846
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,208	1,997
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	123	494
有形固定資産の売却による収入	15	1
無形固定資産の取得による支出	9	19
投資有価証券の取得による支出	0	0
投資有価証券の売却による収入	-	0
貸付けによる支出	6	305
貸付金の回収による収入	1	0
その他	50	17
投資活動によるキャッシュ・フロー	173	835
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額( は減少)	3,260	-
長期借入れによる収入	-	193
自己株式の取得による支出	1	0
配当金の支払額	194	197
少数株主への配当金の支払額	3	3
その他	1	2
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,461	10
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	4
現金及び現金同等物の増減額( は減少)	425	1,155
現金及び現金同等物の期首残高	4,976	6,373
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,550	7,529

【継続企業の前提に関する事項】

該当事項はありません。

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

該当事項はありません。

【会計方針の変更等】

該当事項はありません。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日至平成23年6月30日)
税金費用の計算	当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法によっております。

【追加情報】

当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日至平成23年6月30日)
当第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

偶発債務

保証債務

連結会社以外の会社の金融機関からの借入等に対して、債務保証を行っておりません。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)		当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
康鴻森田(香港)有限公司	125百万円	康鴻森田(香港)有限公司	156百万円
MORITA VIETNAM COMPANY LTD.	164百万円	MORITA VIETNAM COMPANY LTD.	123百万円
計	289百万円		279百万円

(四半期連結損益計算書関係)

売上高の季節変動

前第1四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年6月30日)及び当第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

当社グループの売上高及び利益は、消防車輛事業の官公庁向け売上高の占める割合が高いこと等から、下期、特に第4四半期連結会計期間に偏る傾向にあります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の当第1四半期連結累計期間末残高と当第1四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日) (平成22年6月30日現在)		当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日) (平成23年6月30日現在)
現金及び預金勘定	4,586百万円	現金及び預金勘定	7,595百万円
預入期間3ヶ月超の定期預金	36百万円	預入期間3ヶ月超の定期預金	66百万円
現金及び現金同等物	4,550百万円	現金及び現金同等物	7,529百万円



(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年6月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月29日 定時株主総会	普通株式	223	5.00	平成22年3月31日	平成22年6月30日	利益剰余金

2 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	223	5.00	平成23年3月31日	平成23年6月30日	利益剰余金

2 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					合計
	消防車両	防災	産業機械	環境車両	自転車	
売上高						
外部顧客への売上高	3,511	2,815	386	1,560	663	8,937
セグメント間の内部売上高又は振替高	90	43	0	63	-	198
計	3,602	2,858	387	1,624	663	9,136
セグメント利益又は損失( )	35	41	95	53	128	283

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の  
主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益又は損失	金額
報告セグメント計	283
セグメント間取引消去	1
棚卸資産の調整額	12
四半期連結損益計算書の営業損失( )	294

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					合計
	消防車両	防災	産業機械	環境車両	自転車	
売上高						
外部顧客への売上高	2,266	3,573	464	1,270	792	8,367
セグメント間の内部売上高又は振替高	94	91	0	45	-	231
計	2,360	3,665	465	1,315	792	8,599
セグメント利益又は損失( )	209	250	74	92	53	71

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益又は損失	金額
報告セグメント計	71
セグメント間取引消去	1
棚卸資産の調整額	1
四半期連結損益計算書の営業損失( )	71

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(金融商品関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(有価証券関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
1株当たり四半期純損失金額	6円31銭	2円41銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額(百万円)	281	107
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純損失金額(百万円)	281	107
普通株式の期中平均株式数(千株)	44,640	44,615

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失を計上しているため、また、希薄化効果を有する潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年 8 月 8 日

株式会社モリタホールディングス

取締役会 御中

太陽A S G有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 高 木 勇 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 沖 聡 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社モリタホールディングスの平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社モリタホールディングス及び連結子会社の平成23年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。  
以 上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。